

本学園は1907(明治40)年9月11日に創立。
今年で119周年を迎えました。

TDU Agora

特集

IDC ロボットコンテスト2026日本大会	1
子ども大学はとやま	3
まちのヒーローアカデミー 番外編～サイエンス～	4

CONTENTS

キャンパスよもやま情報	5	Information	7
News	6		





参加者集合写真

特集

IDC ロボットコンテスト2026日本大会

未来科学部 ロボット・メカトロニクス学科
釜道 紀浩 教授

International Design Contest (IDC ロボットコンテスト大学国際交流大会、通称:IDC ロボコン) が2026年8月10日から22日にかけて、東京科学大学大岡山キャンパスで開催され、本学から学内選考会で選出された7名の学生が出場しました。

第36回日本大会

IDC ロボコンは、1990年から開催されている国際ロボコン大会です。世界各国の大学から選出された学生が集まり、多国籍の混成チームを結成して、ロボットの設計製作と競技会が行われます。英語でコミュニケーションを取りながら、提示されたテーマ・ルールに対してアイデアを出しあい、協力してロボットの設計製作に取り組みます。

今年の大会では、日本(東京電機大学、東京科学大学)、アメリカ(マサチューセッツ工科大学)、中国(上海交通大学、清華大学、浙江大学)、韓国(ソウル大学)、タイ(チュラロンコン大学)、エジプト(ミヌーフィヤ大学)、インド(アムリタ大学)の学生54名が参加し、10チームに分かれてコンテストが行われました。

また、今年は日本がホスト国であり、本学からも過去のIDC ロボコンに参加した多数の学生がサポートスタッフとして参加し、大会運営にも協力しました。

今年のテーマは「AI to Science」

今年のテーマは「AI to Science (サイエンスに愛)」。

2024年10月に東京工業大学と東京医科歯科大学との統合に伴い誕生した東京科学大学にちなみ、また、ゲー

ムに画像認識などのAIを取り入れていることにちなみ設定されました。各チームが設計製作したロボットは、ボールを回収する「遠隔操作ロボット」と、ボールをゴールに入れて得点する「自律制御ロボット」です。遠隔操作ロボットと自律制御ロボットの連携により、ボールを集め、ゴールに入れた数を競うゲームです。遠隔操作ロボットには、四脚ロボットを使用することもでき、ピラミッド状に置かれたボールを崩さずに数多く集める機構と動作が重要となります。自律制御ロボットは、オレンジボールは人間のフィギュアのあるゴールへ、シルバーボールはロボットのフィギュアのあるゴールへ入れる必要があり、画像認識の正確さと自律制御プログラムのつくり込みや調整が重要となります。

最終競技会は、一般の観覧者が見守る中、キャンパス内の講堂で開催されました。決勝に勝ち進んだのは、ライトグリーンチームとピンクチーム。ライトグリーンチームは大きなハンドで一度に複数のボールを回収する一方、ピンクチームは吸引式のハンドで一つずつ回収する方法をとっていました。また、自律制御ロボットは両チームとも、ボールを搭載した後にゴール付近までライントレースで進み、ボールの色を認識して、正しいゴールに振り分けていました。熱戦の末、

正確に大量得点を獲得したライトグリーンチームが優勝となり閉幕しました。

IDCロボコンは、各国の参加大学が協力して実施する国際教育プログラムでもあり、学生の創造性と国際感覚を養う実践的な経験の場を提供しています。2週

間という短期集中イベントですが、エンジニアを志す世界各国の学生と協働し、粘り強く技術的課題解決に取り組むなかで、友情を育み、多くの気づきや学び、そして達成感が得られたようです。来年は韓国のソウル大学で開催予定です。

出場学生の声

大野 舜さん(未来科学部 ロボット・メカトロニクス学科 3年)

最高のチームメンバーに出会い、互いに信頼し合いながらロボットを作ることができました。伝えたいことをすべて英語で説明するのは難しかったですが、何度も話し合いながら最後まで挑戦した時間は本当に楽しく、何にも代えがたい経験を得ることができました。

樋口 誠太さん(未来科学部 ロボット・メカトロニクス学科 3年)

英語でのコミュニケーションに苦勞し、自分の勉強不足に気付かされました。高い技術力と知識を持った学生達と一緒に食事をし、一つの机を囲んでロボットの製作に取り組み、みんなで困難を乗り越えた経験が、エンジニアになる自分にとって大きな価値であると感じています！

吉澤 日向さん(理工学部 電子情報・生体医工学系 3年)

一生に一度あるか分からない貴重な経験をさせていただきました。多くの方々に支えていただいた2週間だったと心から感じています。ロボコンの面白さ、大変さ、そしてやりがいを知ることができたのは、皆様の温かい協力と支えがあったからです。本当にありがとうございました。

磯村 幸太郎さん(未来科学部 情報メディア学科 4年)

多国籍の方々とのロボット製作や英語によるコミュニケーションを通して、貴重な経験を得ることができました。この経験は、単なる技術力の向上にとどまらず、多様な領域への関心や自身の可能性を大きく広げるきっかけになったと実感しています。

熊井 啓太さん(未来科学研究科 ロボット・メカトロニクス学専攻 1年)

各国のトップレベルの大学のメンバーたちとロボット製作に参加でき、大変貴重な経験になりました。英語で意見を主張する難しさを実感しましたが、わかり合えた時は最高でした。自由時間には、お互いの文化や言語を教えあい、たくさん学びがありました！一生の思い出です！

井上 貴斗さん(理工学研究科 機械工学専攻 1年)

約2週間、海外の学生と共に一つの目標に向かってロボット製作に取り組みました。異なる専門や考え方を持つメンバーと意見を交わしながら活動したことで、自分にはなかった視点に触れることができ、ものづくりに対する視野を広げる貴重な経験となりました。

西海 朝登さん(理工学研究科 機械工学専攻 1年)

最初は正しい文法で話そうとするあまり言葉が出てこないことがありました。しかし簡単な単語や図を使ってでも自分から伝えようとすれば意思は通じるとわかり、大切なのは英語会話のレベルより積極的な姿勢だと気付きました。



日本からの参加メンバー 製作会場での記念撮影



ピンクチームの吸引型ロボット



決勝戦:自動制御ロボット動きを見守る両チーム



決戦後に健闘を称え合う両チーム



特集

小学生対象の地域連携講座

子ども大学はとやま

8月24日、本学埼玉鳩山キャンパスにて「令和8年度子ども大学はとやま」の修了証書授与式が挙行政されました。26名一人ひとりに長原礼宗子ども大学はとやま学長（本学理工学部長）から修了証書が手渡され、今年度の【はてな学全4回講座】が修了しました。

地域の大学（本学理工学部・山村学園短期大学・日本医療科学大学）・鳩山町・地域事業所が連携して、子どもの知的好奇心を刺激する学びの機会提供を目的に2013（平成25）年に開校した「子ども大学はとやま」は、今年度で13年目を迎え、鳩山町の小学4～6年生の児童への教育支援事業として地域に定着し、鳩山町民の期待にんでいます。

来年度以降も子どもたちの「なぜ」を一緒に考える「場」として地域一丸で運営に取り組んでまいります。

令和8年度

- | | | |
|-------------|---|------------------|
| 第1回講義 6月20日 | はてな学 「模様を探してうちわをつくろう」 | 山村学園短期大学 酒井誠 准教授 |
| 第2回講義 7月22日 | はてな学 「すべての道を1回ずつ通れるかな？」 | 東京電機大学 山岸日出 教授 |
| 第3回講義 8月17日 | はてな学 「音の世界～スピーカーを作ってみよう」 | 日本医療科学大学 椎葉倫久 助教 |
| 第4回講義 8月24日 | はてな学 「宇宙から地球を見てみよう」 （一財）リモート・センシング技術センター 阪井奈央 氏 | |





特集

草加市との連携協定を具体的な学びへ

まちのヒーローアカデミー 番外編～サイエンス～

この夏、本学と草加市との包括的な連携協力に関する協定に基づく取り組みとして、草加市、株式会社加藤製作所と連携し、草加市在住の小学5・6年生、中学1～3年生を対象に、「まちのヒーローアカデミー 番外編～サイエンス～」を全3回にわたり開催しました。

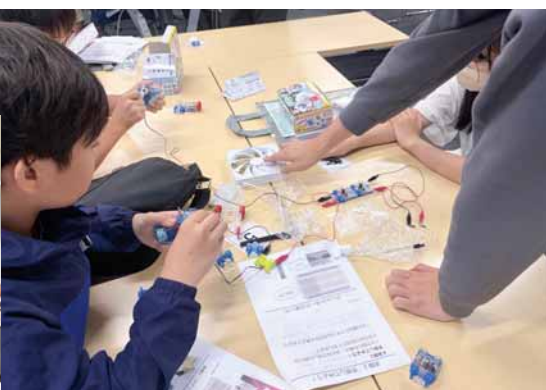
本講座では、大学・自治体・企業がそれぞれの強みを生かし、科学やものづくりなど、それぞれのフィールドで活躍する「ヒーロー（大人）」との出会いを通じて、子どもたちが地域や社会とのつながりを考える体験型の学びを展開しました。

第1回（7月4日）は本学東京千住キャンパスにて、クレーン車を題材に「電気」と「油圧」の仕組みを学び、モデルカーの組み立てを通して電気駆動や回生システムについて理解を深めました。第2回（7月22日）は建

設中の新草加消防署と草加市役所を訪問し、地域の安全を支える公共施設や、まちづくりにおける行政・消防の役割を学びました。

第3回（8月25日）は株式会社加藤製作所の茨城工場を訪問し、大型クレーン車の製造工程を見学するとともに、現役エンジニアとの交流を通して、ものづくりの現場を体験しました。最後に、3回の学びを振り返り、グループごとに発表を行いました。

大学、地域、企業という異なるフィールドでの学びを通じて、科学技術や、街やインフラを守る「ヒーロー（大人）」達が地域の暮らしや社会を支えていることを実感する機会となりました。今後も草加市との連携協定を基盤に、地域・企業との協働による実践的な教育活動を展開していきます。



東京千住キャンパス

総合研究所研究成果発表会

8月24日、総合研究所による2026年度「研究成果発表会」を開催しました。全学的な研究機関である総合研究所は、社会のニーズと合致した実践的な研究課題に取り組んでいます。「研究成果発表会」は、本学教員の幅広い分野における研究成果を広く一般に公表するために、毎年開催しています。今回は、工学部の植野彰規教授による特別講演をはじめ、口頭発表3件、およびポスター発表34件を行いました。

(研究推進社会連携センター 高橋)



埼玉鳩山キャンパス

外国人留学生日本文化紹介「七夕」

外国人留学生への日本文化紹介の一環として「七夕」行事を行いました。この催しは、鳩山キャンパスで毎週木曜日に実施している「日本語でシャベル会」のなかで四季折々の日本文化を織り交ぜながら実施しています。日頃から日本語ボランティアとして参加協力のある日本人学生や教職員も交え、みんなで一緒に短冊に願いごとを書き笹に飾りつけをしました。その後、七夕当日まで国際センター前に笹を設置すると、大勢の学生から約200枚の願いごとが集まりました。みんなの願いが叶いますように…。

(国際センター 湯谷)



異文化コミュニケーションクラブ「日本語でシャベル会」

日 時：毎週木曜日（原則、授業のある期間）17:10 - 18:10

日本語ボランティア募集（本学の学生・教職員どなたでも参加可です。）

東京小金井キャンパス 中学校・高等学校 ようこそ先輩



7月11日、中高大連携教育の一環として「ようこそ先輩」を実施しました。本イベントでは、中学3年生から高校3年生の在校生および保護者を対象に、本校卒業生で現在は東京電機大学大学院で学ぶ先輩方を講師に招き、中高時代から現在に至るまでの歩みや大学・大学院での学び、研究内容について講話いただきました。閉会後も多くの生徒・保護者が先輩方に熱心に質問する姿が見られ、大学での学びや進路について理解を深める貴重な機会となりました。

(進路指導部長 星野)

ピックアップ! 出版局



★出版局より、新刊の紹介や話題の本、イベントなどのホットな情報を掲載！

今回ご紹介の書籍は、6月と7月刊行の新刊2点です！



続 はじめての振動工学

藤田聡(本学名誉教授)ほか 著 ISBN:978-4-501-42090-1 A5判・256頁 定価3,630円

建物や機械の「揺れ」を理解し、安全性や耐久性、快適性の向上に役立てる振動工学の専門書。豊富な例題に加え、MATLABによる解析の基礎も学習可能。実践的な一冊。



工学のためのPythonプログラミング

村木正芳 著 ISBN:978-4-501-55800-0 A5判・208頁 定価2,970円

Pythonの入門から応用をカバーする教科書。基礎・数値計算・データ解析の必須事項を1冊で学ぶことが可能。工学系の例題をもとに解説し、練習問題や章末問題も掲載。

<ピックアップ! シリーズ本>

今回紹介している新刊のシリーズ書をピックアップしました！



はじめての振動工学

藤田聡(本学名誉教授)ほか 著 ISBN:978-4-501-42020-8 A5判・176頁 定価2,750円

振動工学の内容において一自由度系の振動に特化して解説。基礎をしっかり理解し、応用力を育てることに力点を置いた。演習問題も豊富に掲載しているため自習書として最適。



工学のためのVBAプログラミング基礎

村木正芳 著 ISBN:978-4-501-54630-4 A5判・208頁 定価2,420円

身近にあって扱いやすいExcel VBAによりプログラミングを学ぶ入門実習書。応用編では数値計算の代表的仮題を取り上げ、数学的处理の考え方を提示。



工学のためのVBAプログラミング 数値計算編

村木正芳 編著／田中秀明ほか 著 ISBN:978-4-501-42070-3 A5判・192頁 定価2,860円

既刊書の応用編。初學者でも学びやすいVBAを用いて数値計算プログラムを解説。数値計算の解法を示したうえで原理と手順を流れ図で示し、簡潔なプログラムで解説。

★出版局ではメールマガジンを配信しております。ご希望の方は、右記URLよりご登録ください！
<https://web.tdupress.jp/mailmagazine/>



「ANNUAL REPORT 2026」発行

アニュアルレポート2026を発行しました。2025年度の学園の事業報告書として、学園の取り組みと成果、財務情報をまとめた冊子です。この1冊で学園、大学の経営方針と年度事業がわかります。

ホームページに掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

<https://www.dendai.ac.jp/about/gakuen/publicity/download/>



今月の俳句

教職員親睦会「千住俳句会」

蚊の羽音ぴしゃり叩けどまた聞こゆ
 夕立や全てを流し風新た
 自動ドア開いて蟬の大音声
 おんじょう

英次(武田英次)
 廼子(大園成夫)
 七美男(松田七美男)



TDU Agora 100号記念

学園広報誌として、2017年7月に創刊した「TDU Agora」が、本号で通巻100号を迎えました!

タイトルのAgora (アゴラ) は、「広場」を意味します。

本誌が、学びや創造の交流の場、憩いの場となるよう願いを込めて、今後も学園の情報をお届けします。



バックナンバーはこちらから

<https://www.dendai.ac.jp/about/gakuenpublicity/tduagora/>

編集後記

本学園は、9月11日に創設119周年を迎えました。

2人の青年技術者、廣田精一と扇本真吉が開設した夜間の「電機学校」が、東京電機大学の始まりです。

2人の大志「後世、科学技術の総本山たらん」は、教師と生徒たちによって脈々と受け継がれ、今日に至っています。

TDU

学校法人東京電機大学 (総務部企画広報担当)

〒120-8551 東京都足立区千住旭町5番

TEL. 03-5284-5125 FAX. 03-5284-5180

E-mail: soumu-kikaku@jim.dendai.ac.jp

<https://www.dendai.ac.jp/>



この印刷は環境保護の為、印刷に伴う廃液を排出しないシステムで印刷されています。